

国際サーカス村通信	VOL.17 N001	2012年 10月 9日 (火)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688	mura@circus-mura.net	http://www.circus-mura.net

● サーカス学校再開について



↑学校周辺の放射線値を測って
まわる西田校長と関口事務局長

さる9月26日、サーカス学校体育館周囲などの一部を、みどり市が放射能除染を行い、地上1メートルの放射線量が0.1マイクロシーベルト毎時前後になったので、サーカス学校再開を決意した。この数字は必ずしも満足するものではなく、先日も台風の大雨の後、大きく数値があがったところもあるのだが、体育館内は、ほぼ常時0.08マイクロシーベルト毎時なので、再開を決意した。

果たしてこれでよいのか、正直悩み続けている。より放射線量の少ないところに、サーカス学校を移すほうがよいと思い、休校中、何箇所か訪ねたが、適切な場所を見つけることができなかった。もちろん、適切な場所が見つかったとしても、生徒たちの居住場所の確保、サーカスの道具、そして膨大な資料などの移転を考えると、金銭的にも、ほぼ不可能と思っていた。それ故、“移動サーカス学校”という方法での可能性を探ってみたのだが、これも難しいことが分かった（一箇所、よいところがあったのだが、家賃が高く、これまた諦めざるをえなかった）。

ところで、再開したサーカス学校の新入生は、現状4名。実は、この人数では、先生の給料、学校の維持費など考えると、いままだサーカス学校としてはいくらか蓄えがあるが、早晚、経営が難しくなる。なんとか、生徒数が10名程度になるように努力しなければならないのだが、その場合も、現状のサーカス学校周辺の放射線量を公表して、生徒募集しなければならないと考えている。

■ブログにて放射線量を公表しています。「国際サーカス村・村長日誌」 <http://blogs.yahoo.co.jp/circusmura>

*

これまでのサーカス学校の活動は10年を越える。この間、中退組を含めて、多くの生徒が、東京都のヘブンアーティストという公認大道芸アーティストとして認定されたし、また、サーカス団に入団した者もいる。こうした成果が出ている以上、なんとしてもサーカス学校を存続させたいと願っている。またこうしたことのみならず、サーカスという文化を少しでも広めることのためにも、サーカス学校の活動は持続されるべきだろう。日本のサーカス文化の裾野は、正直、きわめて貧弱というか、大きな広がりを持っていない。しかし一方では、サーカスにあこがれる若者がかなり増えているのも事実だ。しかしそうした若者たちを育てようとする動きは残念ながら始まっているとはいえない。大道芸のイベントなどはかなり盛んになってきているが、それも

商業施設や村・町起こしに利用されている域を超えてはいないのも事実だ。確かに、サーカスショーそのものも利益を求めて行われているのも事実なので、大道芸が商業目的に利用されることは、一概に否定できるものではない。

だが、サーカスには、人々に夢を与える部分もあれば、サーカスの技を身につけようとするこ
とで、自分の可能性を発見する（あるいは実力を知る）こともある。サーカスにはさまざまな面
があるからこそ、ひとつの文化として、今日まで絶えることなく続いてきたに違いないし、そこ
に関わって、何かを作り出していこうとするのは、ある意味、やりがいのあることにちがいない。

サーカス学校の休校を乗り越え、再起を図ることで、新しい一步が踏み出せればと考えている
ので、ぜひ、皆様のご協力をお願いします。

●沢入サーカス学校、授業再開しました！-沢入国際サーカス学校より

サーカス村協会の会員の皆様こんにちは。サーカス学校研究生兼講師のアツシです。

昨年12月の発表会をもって休校になっていた沢入国際サーカス学校は、10月1日より再開し
ました。おなじみナージャ先生を講師に迎え、入学した生徒は4名。私は現場のお手伝いをさせ
ていただいています。

生徒のみんなは、サーカス芸の基礎となるアクロバットはほとんど未経験。体は硬く、柔軟体
操の時間は毎日ナージャ先生に押されてヒーヒー言っています。自分も入ってきた時はそうだっ
たなあと、涼しい顔で傍らで見ていると、ナージャ先生がやってきて「アツシ、ダヴァイダヴァ
イ！（やりなさい、やりなさい!）」と、古株にも容赦はありません。うう…イタイです。

柔軟体操が終わればマット運動です。みんな一列に並んで前転、後転、横回りに肩まわりなど
行います。以前、生徒が20人がいた頃は、自分の順番が回ってくるまで時間がかかりましたが、
今はひとりひとりみっちりナージャ先生の助言をいただけます。

これは生徒にとってとてもラッキーな事です。はじめのうちはどうしても補助が必要だったり、
雑に技を覚えてしまったりするので、先生を独占できる時間が長くとれるのは大変よい事です。

午後は私のジャグリングの授業を行い、その後、
各自挑戦してみたいジャンル（空中リングやシフ
オン、ローラーなど）にトライしています。とは
いえ、まずはサーカス芸を身につけられる体づく
りをじっくりしなければ始まりませんし、すぐに
自分のジャンルを決めなければならないわけ
でもありません。基礎運動能力をきっちりマスタ
ーしながら、自分が本当に目指したい路線を探し
て行ってほしいと思います。



↑ジャグリングを教えている様子（一番右がアツシ）

*

今、授業が始まって一週間が経ちましたが、新入生たちは、一週間前まで止まれない姿勢で止
まれるように（倒立など）なったり、伸ばせなかった膝が伸ばせるようになったりと、それぞれ

既に進歩がみえてきました。ささいな進歩ではありますが、きっと生徒本人達も出来るようになる喜びをすこし感じているかと思います。ナージャ先生も「一週間で進歩が見られるのはうれしい！でもあせらずにいきたい」とおっしゃっていました。

順調な再開ではありますが、ハード的な部分で問題がいくつか…。

まず一つ目は、放射線値。生徒が出入りする玄関付近の排水溝は、再開前に関口事務局長のお力添えで市の職員の方々が除染作業をしてくれたおかげで放射線値は下がったのですが、西田校長のブログにアップされているとおり体育館の奥の排水溝の放射線数値が依然として高いままで、今はそのすぐ近くのドアを閉め近づかないようにしています。なぜ排水溝の数値が高いままなのか…。



↑問題の屋根の下。バケツが並べられている。雨水による被害か、壁がはがれかけている。床にはビニールシートが広げられていた。

二つ目は、体育館と西校舎の雨漏り。体育館は一応大量のバケツとビニールシートで床に水が落ちないように努力をしていますが、限界があります。西校舎の屋根の穴はまた少しずつ大きくなっているようです。屋根の修理は急務と感じています。

このような諸問題も気にしながら、一方で生徒達がどんなふうになっていくのか、どんな芸を身につけていくのか楽しみです。

今後、さらに新しい生徒もやってくる事と思います。卒業生のみ

んなも後輩達のよい刺激になるのでたまには遊びに…いやいや、練習しに来てください。

そして会員の皆様、まだまだ再開したばかりでございますが、これからも末永く沢入国際サーカス学校をよろしく願いいたします。(高村篤)

● 総会のご案内

期日 11月7日(水) 午後6時～

場所 国際サーカス村協会 東京事務局 (㈱アフタークラウディカンパニー内)

議題 平成11年度事業報告・会計報告 (別紙ご参照)

平成12年度事業計画

役員改選

連絡先 ☎03-3403-0561

* 同封葉書にて、ご出欠を連絡してください。

● 会費納入のお願い

サーカス村協会は、10月から平成24年度となります。つきましては、同封郵便振替用紙で、会費の納入をお願いします。

年会費 5,000円

郵便口座：00180-8-106528 加入者名：国際サーカス村協会

●PPS「ソカ」の公演と復興予算

3年に1回、新潟県越後妻有で行なわれる、大地の芸術祭アートトリエンナーレに、8月10日（金）～12日（日）、カンボジアのNGO組織 Phare Ponleu Selpak のサーカス作品「ソカ～ある少女の物語～」が参加した。ポル・ポト政権下の内乱によって難民となって故郷から避難し、また故郷に帰って若者たちを指導する一人の女性の一生を追う本作は、PPSの代表であるコン・デッドの半生そのものを物語にしたかのような作品で、カンボジアの暗い近代史に向き合った作品は重い空気を漂わせながらも、最後には明るくさわやかで、人間讃歌に満ちた内容だった。比較的物語をかませにくいサーカスに、社会性や人の生死を問う内容になっている本作は、現代的なサーカスを見慣れない人には新鮮に映ったかもしれない。大地の芸術祭のお客さんの中でも、戸惑いを見せたお客さんも少し見受けられたが、カーテンコールは毎公演、暖かい拍手がしばらく鳴り止まず、多くのお客さんが楽しんでいて、PPSの若いアーティスト達が、俳優として演技、随所に織り込まれるダンス、仮面を使った表現技術など、サーカスだけではなく、さまざまな表現方法を習得している事にも驚かされた。PPSの充実したカリキュラムを、作品から感じる事ができた。



↑ソカのワンシーン。生徒たちに囲まれる老婆。サーカス技だけでなく、演劇の要素も大きい。

この作品、もともとは2009年の時のように国際サーカス村協会が大地の芸術祭に招聘する予定だったが、招聘準備を進めているうちに、PPSの来日は外務省が進める震災復興支援事業「キズナ強化プロジェクト」の一環として、大地の芸術祭に来日する事になった。国際渡航費、国内移動費、舞台道具輸送費などは、全て外務省持ちという事になる。「キズナ強化プロジェクト」の一環で来日

する事になった PPS は、サーカスのメンバーだけでなく、その倍ほどの数の生徒が来日し、大地

の芸術祭公演の前に、福島県の天栄村を訪れ、地元の人たちや仮設住宅で生活している人たちと交流をしてきた。外務省側から同行を許されなかったので、詳細は知るべくもないが、天栄村の方々のホームページを見る限り、なごやかな交流だったようだ。PPSの校長であるコン・デッドは3回行なわれた公演前のプレトークで、必ずこう話していた。

「私たちは福島県の天栄村という場所へ行き、仮設住宅で生活している人たちと交流してきました。原発事故によって風評被害をうけている住民たちと話をしてきました。この場を借りて、キズナ強化プロジェクトを実施して下さった日本政府、日本国民に深く御礼申し上げます。福島で

の4日間の滞在で、人々が普通に生活をしている事がわかりました。人々は暖かく歓迎して下さいました。そして、食べ物美味しく、美しい自然、綺麗な空気を触れる事ができました。また、多くの文化交流をする事ができました。この体験を、帰国したら多くの人たちに伝え、天栄村はなんの問題もなく、安全である事を伝えたいと思います。」デッドのクメール語を訳したのは、外務省からプロジェクトを委託された公益法人の団体職員である。揚げ足を取るつもりはないが、原発事故の実害をあえて「風評被害」と言い換えるその姿勢に、外務省肝いりのキズナ強化プロジェクトの本質を見た気がし、なんとも嫌な気分がした。天栄村の放射線数値は福島県の中では比較的低い地域ようで、役場前が $0.24 \mu\text{Sv/h}$ 、村の各地の高さ 1メートルの平均空間線量は $0.12\sim 1.14 \mu\text{Sv/h}$ (2012年5月測定) である。(環境省の除染基準は $0.23 \mu\text{Sv/h}$) もちろん、天栄村の方々が、PPSのメンバーによる訪問によって元気づけられたのは事実だと思うし、それは良かったのかもしれない。訪問した事がないので僕には正確な事は分からないが、天栄村で採取された野菜や、農作物の多くは実際安全なのだと思う。しかし、このキズナ強化プロジェクトの根本の狙いは、直接的にせよ、間接的にせよ、多くの外国人に「福島は問題ない」と思わせようとしている所にある。震災から18ヶ月も経っているのに、未だに16万人が避難生活をし、一日あたり2億4千万ベクレルの放射線セシウムが福島第一原発から放出され、メルトスルーした核燃料の所在も突き止める事が出来ない。4号機の使用済み核燃料プールが下手すると地球の半分に深刻な汚染をもたらすのではないかと、世界中から危惧されている。高線量地の住民達自ら危険を冒しながら除染しなくてはならないし、福島市での子どもたちの甲状腺検査では4万2千人のうち43%の子供に「のう胞」が見つかった。避難したい親子達が依然として、経済的精神的苦境によって避難出来ずに苦悶している。異常事態はまだまだ続いている。「問題ない」という言葉が勢いづく事によって、より弱い立場の人たちが、口を封じられ閉じ込められているのではないだろうか？

増税と歳出削減によって政府の復興予算は19兆円に及び、来年から25年間、復興予算として所得税に2.1%上乘せされる事も決まったようだ。キズナ強化プロジェクトも復興予算から捻出され、カンボジア以外からも多くの「若者たち」が復興予算で「日本は安心安全キャンペーン」に招聘されて、日本にとって都合の良いところだけを見せられて帰国させられている。被災地の人々と交流をもたらしたPPSはまだ良い方かもしれない。19兆円に及ぶ復興予算のうち2兆円を超える額が、なぜか被災地とは関係ない、沖縄県の国道道路工事に使われていたり(国土交通省)、岐阜県のコンタクトレンズ会社の工場につぎ込まれたり(経済産業省)、北海道と川越の刑務所の職業訓練の拡大(法務省)や捕鯨に反対するシーシェパード対策(農林水産省)、テロ対策治安確保(公安調査庁)や、千駄ヶ谷の国立競技場補修費(文部科学省)に使われたりしている。200を超える事業数だ。(NHKスペシャル「シリーズ東日本大震災 追跡 復興予算19兆円」より。2012年9月9日放送)

省庁間で復興予算の奪い合い。本当に予算を必要としている被災地・被災者に十分な支援はできているのだろうか、どうもそうではないようだ。進まない復興と、一向に先行きが見えない原発事故の後処理。ドイツでは経済よりも倫理を優先して企業までもが脱原発に取り組んでいると聞く。もうこれ以上道を踏み外さない為に、僕たちはどうしたらいいだろうか？(辻卓也)

最新サーカス公演情報

★ウルトラドリームサーカス 2012「奇蹟・チューダー」

ロシア、ウクライナ、ベラルーシから来日したサーカスアーティスト達による、秋の姫路セントラルパーク恒例の、オリジナルサーカスショーです。サーカスの人気プログラムが、海の旅をテーマに組合わさった、楽しみ満載のスペシャルショーです。

●2012年9月15日(土)～11月4日(日) 12:30/14:30 ●休演日:毎週水曜日

●電話:姫路セントラルパーク TEL079-264-1611 ●会場:姫路セントラルパーク遊園地内「風の城」

★リトルワールド “中国国立雑技団～超技～”

中国最高峰と名高い「中国雑技団」より12名の精鋭がリトルワールドにやってきました!

●公演期間 2012年9月15日(土)～12月26日(水) ●休演日:毎週火曜日

●会場:野外民族博物館リトルワールド(愛知県犬山市)野外ホール ●電話:リトルワールド 0568-62-5611

★Mercedes-Benz presents ルノア ダークシルク

わずか1m先の舞台上で、世界最高レベルのアクロバットや驚愕のシルクが繰り広げられる…。

●公演期間 2012年10月26日(金)～11月25日(日)※開演時間などは公式サイトでご確認ください。

●休演日:毎週月曜日、11/8(木) ●会場:東京・品川プリンスホテル クラブ eX

●お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL0570-00-3337 ●公式サイト <http://www.le-noir.net/>

その他公演情報

★K.ファウスト

K.ファウスト君、きみは誰さ? そんなに宇宙の言葉を知りたいがるなんて。よし、それならメフィストフェレスという悪魔を紹介しよう。

これはゲーテが書き上げるずっと前の、民間伝承の物語から出発した串田和美の演劇世界。21世紀の超娯楽劇! 踊る音楽! 奏でるサーカス! なんともバロックなロードムービー! ■公式サイト <http://k-faust.com/>

[東京公演]世田谷パブリックシアター

■2012年10月6日(土)～14日(日)

■お問い合わせ:ぶれいす TEL03-5468-8113

[松本公演]まつもと市民芸術館 特設会場

■2012年10月19日(金)～21日(日)

■お問い合わせ:まつもと市民芸術館 TEL0263-33-3800



★100年サーカス

ことでん仏生工場がサーカスに!? 世界でここだけのサーカスが、はじまる!

■日時:2012年11月3日(土・祝)13:00/16:30 ■会場:ことでん仏生山工場

■チケット:一般1,000円 中高生500円 小学生以下無料

■お問い合わせ:100年サーカス実行委員会 TEL080-2977-5469

★メガバブルショー

20数年バブルファンタジーを追求し続けたファン・ヤンの秘術の集大成。幻想的なレーザーと照明、そしてサラウンドサウンドを織り交ぜた夢のスペクタクルショーです。

■日時:2013年1月17日(木)14:00/18:30 ■会場:メルパルクホール東京

■チケット:S席6,000円 A席4,500円(全席指定) ■予約:TEL03-5809-1082

